

専門部会の取り組みについて

【鳥取駅周辺地域・商業交通検討部会】

●第4回 平成24年8月1日(水) 出席委員6名

報告・協議事項

・1期計画の総括(案)について

1期計画の課題と目標、事業の検証、推進体制の検証、2期計画に向けた課題・取り組み
 主な意見：*中活協議会の役割について整理したほうがよい

- *居住推進に関して、子育て世代の居住推進、転勤族や若い世代が住み続けやすい環境整備が必要である
- *にぎわい創出について、一定程度の距離間隔で拠点を整備するという点に関して、拠点整備よりも、施設間の連携や、人の流れの創出をマネジメントする組織を確立し、それを支援することが施策的にはよい
- *駅南口広場の利便性向上は、駅南口広場では100円バスが導入されているが、自家用車の違法駐車等もあり、整備することは良い
- *観光客等の受け入れ体制の充実に関して、鳥取駅構内の観光案内所が狭く立ち話しかできない状態なので改善が必要
- *にぎわいに関して、空き店舗の多い少ないが市民の感覚に訴えるという意味では、大前提は空き店舗がない中心市街地を整備することではないか

・2期計画事業(案)について

1期計画の課題に対応する2期計画の事業(案)について

- 主な意見：*物産観光センター跡は場所的にも大変重要なので、うまく利活用してほしい
- *民藝美術館の環境整備、シャミネの改修、パレットと通りの運営事業等についても2期計画に入れるべきである
 - *バリアフリー化の一層の推進や、どこにトイレがあるかという看板を設置したほうがよいのではないか
 - *1期計画で行った交通社会実験の課題と、それについての2期計画に向けての取り組みを入れたほうがよいのではないか
 - *地域資源や観光資源の活用について、行政といかに連携を図っていくかが課題ではないか

●第5回 平成24年8月22日(水) 出席委員8名

報告・協議事項

・1期計画の総括(案)および2期計画における重点施策(案)について

1期計画の課題整理と2期計画での対応、2期計画の重点施策と基本方針

- 主な意見：*「駅前サンロードのアーケードの老朽化対策」とあるが、場所を限定しないほうが良い
- *「継続的なまちなか情報提供の仕組みの構築」について、IT技術に基づいた仕組みが出来ているか
 - *鳥取の中心部で安心して買い物が出来る環境を整えることが重要
 - *駅南にぎわいゾーンについて、(課題があるのに)記載されていない

・2期計画策定における考え方(案)について

2期計画のテーマ、基本方針、目標、目標指標、エリアコンセプト

- 主な意見：*目標指標の居住人口を社会増減に限定するとあるが、そうするためのストーリーが必要
- *事業・施策が目標指標の向上にどう役立つのかという整理が必要
 - *にぎわいという面からのお客さんのとらえ方としては、来街頻度と滞留時間

がある
*個店が光り輝いて発信しているところがありさえすれば滞留性も回遊性も増していく。それを後押しするような施策が必要

・2期計画事業(案)について

2期計画のエリア別の課題とそれに対応した事業

主な意見：*太平線の再生プロジェクトは官民連携の重要な事業

- *街なか子育て支援事業は、鳥取市全体で取り組むべき、非常に良い事業
- *「鳥取駅周辺の多機能集積によるにぎわいの再生」とあるが、「多機能集積」という言葉が手法としてにぎわいにつながるものがイメージしにくい
- *路線バスを利用するにしても、健康でなければ乗り降りが難しい。タクシーやシニアカーの利用も考えるべき

【鳥取城跡周辺地域・住居交流検討部会】

●第4回 平成24年8月1日(水) 出席委員6名

報告・協議事項

・1期計画の総括(案)について

1期計画の課題と目標、事業の検証、推進体制の検証、2期計画に向けた課題・取り組み

- 主な意見：*
- 「一定の距離の間隔で拠点を整備することにより人の流れを創出する」について拠点の数が問題ではなく、今ある拠点の魅力づくりやトイレの整備、駐車場の配置等、歩きやすい環境、歩いてもらえる環境づくりが必要
 - *拠点整備と同時に周辺の個店の店主の意識改革が非常に大切
 - *まちなか居住の課題整理の中で、地域コミュニティに関することを課題に挙げるべき
 - *空き店舗対策として、行政サイド等の利害関係のない第三者が調査機関を作るべき
 - *若桜街道周辺を街なか居住、城跡周辺を観光、と分けて課題を考える

・2期計画事業(案)について

1期計画の課題に対応する2期計画の事業(案)について

- 主な意見：*
- 事業の効果と優先順位の説明が必要
 - *若桜街道のこむ・わかさ、五臓圓ビルの活性化事業、民藝美術館の事業を入れるべき
 - *不動産の再利用の仕組みが必要
 - *袋川を利用した活性化に取り組めないか

●第5回 平成24年8月21日(火) 出席委員8名

報告・協議事項

・1期計画の総括(案)および2期計画における重点施策(案)について

1期計画の課題整理と2期計画での対応、2期計画の重点施策と基本方針

- 主な意見：*
- 「中心市街地内での住み替え促進施策」は、中心市街地へ住んでもらうという施策に一本化してよいのでは
 - *歩道の中は自転車との境界線が無くとても危険。歩道の改善を重点課題に加えるべき
 - *「住みたいまち」の施策としても子育て支援は重要
 - *まちなか居住の促進の「既存ストックの活用」は、表現の幅を広げるべき
 - *「スマートグリッドの推進」だけでは住みたいということがイメージしにくい

・ 2期計画策定における考え方(案)について

2期計画のテーマ、基本方針、目標、目標指標、エリアコンセプト

- 主な意見：*
- *基本方針の「まちなか居住の推進」について、文化的なものも含めた豊かな暮らしがイメージできるものにすべき
 - *基本方針に「自動車に頼ることなく暮らすことのできる中心市街地の形成する」とあるが、「目指す」としたほうがよい
 - *目標の「住みたいまちの実現」「行きたいまちの実現」について、方針と目標指標をつなぐような、分かりやすいものにしたほうが良い

・ 2期計画事業(案)について

2期計画のエリア別の課題とそれに対応した事業

- 主な意見：*
- *エリア別の課題について、整理してまとめるべき
 - *まちなか居住促進には直接的な支援が必要。モデル事業だけでは難しい。
 - *安心して暮らせる居住地域、学校とか福祉とか、そうした環境整備というものを前面に出したほうがよい
 - *観光という視点を、ふるさとを感じるというところも含めて重点施策の中に入れて、4本柱でもいいのでは
 - *もう少し民間事業を入れ込まないといけない
 - *観光を中心市街地活性化の中に位置づけ、施策として支援すべき
 - *鳥取駅前に観光バスを止めることは重点施策の中に入れるべき